

2025 年度法科大学院入試（C 日程） 【一般論文試験問題】 出題趣旨および採点基準

＜出題趣旨＞

法曹実務においては、「いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ」といった事実関係（いわゆる 5 W1H）を時系列に沿って整理し、正確に伝える能力が求められる。そこで本論述問題では、まず、本文に記された事実関係を正確に整理して要約し、戦後日本の消費者金融が担ってきた役割や課題を開発経済学の視点を例に問い直そうという、著者の問題意識を明確にする力を問う。次いで、著者の論点を踏まえたうえで、現在の日本における貧困対策について具体的な提言を文章化する力を測る。

＜採点基準＞

以下の諸点を評価する。

設問 1. 指定通りに本文を要約できているか。また「サラ金」「消費者金融」「金融包摂」といったキーワードを正しく用いているか。著者は本文で「望んでも金を借りられない貧困層に対し、金を貸して所得を増やす機会を提供する」こと（金融包摂）への着目を提案しているが、この点を押さえていなかったり、逆に自分の問題意識を無理やり入れ込んだりするような回答は、とりわけ低い評価となる。（30 点）

設問 2. 問題文は「自分の考えを論じなさい」と問うているので、著者の論理と自分の意見とを明確に区別して説明する考察が評価される。一方で、「上の要約を踏まえ」ることが要件なので、本文に全く触れないまま論陣を張る回答は低い評価となる。（30 点）

【その他】

- ・議論の流れの一貫性や主張の明確さが際立つ回答に、最大プラス 40 点
- ・字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は、著しい場合のみ最大マイナス 20 点